

今夏の甲子園は、
海の向こうからやってくる。

ニューヨーク・
ドキュメンタリー
映画祭 2019
〈入選作品〉

甲子園

監督・編集: 山崎エマ

A CINERIC CREATIVE PRODUCTION IN CO-PRODUCTION WITH NHK & NHK ENTERPRISES

DIRECTED AND EDITED BY EMA RYAN YAMAZAKI

PRODUCED BY ERIC NYARI EXECUTIVE PRODUCERS YUSUKE ITOH KEIKO TSUNEGI SHIN YASUDA

CINEMATOGRAPHY BY MICHAEL CROMMETT ORIGINAL SCORE BY JASON CUMMINGS

SOUND RECORDING BY AJ MIYATAKE SOUND DESIGN & RE-RECORDING MIX BY TOM PAUL

TITLE DESIGN & GRAPHICS BY NAOKO SAITO POST-PRODUCTION SUPERVISOR FUMINO SATO

NHK nep

フィールド・オブ・ドリームス



アメリカを拠点に活躍する

若き女性監督が見つめた夢と汗と涙の物語。

2019年11月

米・最高峰のドキュメンタリー映画祭「DOC NYC」ワールドプレミア

2020年6月

米・最大級のスポーツ専門チャンネル「ESPN」全米放送

そして2020年8月

ついに日本公開へ!!

これまで「高校野球」を題材にしたドキュメンタリーは数々あったが、
海外撮影クルーが長期取材を敢行した作品はほぼなかった——

若き女性監督が世界に伝えた「高校野球のいま」

ニューヨークを拠点に活躍する映像作家・山崎エマが監督を務め、米・撮影クルーとともに「夏の甲子園」第100回記念大会へ挑む激戦区神奈川県雄・横浜隼人高校と、大谷翔平や菊池雄星を輩出した岩手県・花巻東高校の球児とその指導者へ1年間に渡る長期取材を敢行したドキュメンタリー映画『甲子園:フィールド・オブ・ドリームス』。物語は、30年近いキャリアの中でも特別な想いで記念すべき年に挑む横浜隼人高校の水谷哲也監督、そして水谷の愛弟子である花巻東高校の佐々木洋監督。第100回の夏へ挑むふたりの監督を追いながら、純粋に青春の全てをぶつける高校球児と、教育の最前線にたつ指導者の葛藤、喜びを見つめていく——。

本作は、「高校野球という日本独自の文化を海外に紹介したい」という監督と制作陣の願いから日米の国際共同制作作品として誕生した。海外に先駆け放送され大きな反響を呼んだNHKのドキュメンタリー「ノーナレ 遥かなる甲子園」(18)、「HOME 我が愛しの甲子園」(19)で描ききることができなかった部分まで被写体を掘り下げ、余すところなく高校野球の魅力を詰めた長編作品である。

初お披露目となったのは2019年11月、アメリカ最高峰のドキュメンタリー映画祭「DOC NYC」でのワールドプレミア。その上映が評判を呼び、2020年6月にアメリカ最大級のスポーツ専門チャンネル「ESPN」にて全米放送されると、日本人メジャーリーガーたちの“原点”を描いた作品として、また高校野球を“日本社会の縮図”と位置づけ変わりゆく時代の空気をも切り取る山崎エマ監督ならではの視点とその手腕に、野球大国であるアメリカ全土で高い関心と大きな話題を集めた。そして奇しくも夏の甲子園が中止となった2020年の8月、世界に高校野球を伝えたこのドキュメンタリー映画が海を渡り日本へ上陸する。



延岡シネマ

'20.12.04

0982-21-8888